

1 はじめに

本校は各学年単学級という小規模校である。少人数であるが故に、どうしても学校行事等において盛り上がりに欠ける部分があり、それを教員も生徒も課題と捉えていた。今年度の生徒会スローガンには、色々な場面で一人一人が個性を発揮し、何事にも懸命に取り組んで全校生徒で固い絆を育んでいきたいという意味を込め、『瞬花終闘～朝顔・固い絆～』に決定した。この生徒会スローガンを踏まえ、少人数の良さや強みを生かしながら、一人一人が主体となり、活気あふれる学校づくりのために何ができるかを考えた。

2 実践

(1) 小集団内での自己有用感を高める活動

ア 文化祭での一人一役

2学期に行われた文化祭では、生徒全員が実行委員となり、運営に携わった。当日までの約一か月間、同級生だけでなく先輩や後輩と深く関わりながら活動する姿が見られた。生徒たちの新たな一面を発見し、良さに気づく場面が生まれた。

イ 異学年間の交流を深める縦割団活動

各学年を3つのグループに分け、異学年集団で構成する縦割団活動に昨年から継続して取り組んだ。1学期は縦割団対抗の種目を入れて体育祭を実施した。2学期の文化祭の合唱コンクールでは、全学年共通の課題曲を縦割合唱に変更して実施した。体育祭では、各団とも互いに声をかけあい、先輩が後輩をうまくリードしながら練習に取り組む様子が見られた。また、文化祭の合唱コンクールでは、3年生がリーダーシップを発揮し、集団を盛り上げたり、先輩としてアドバイスをしたりしながらよりよい合唱を目指して意欲的に活動に取り組んだ。



(2) 愛校心を高める活動

ア 愛校日

9月26日の創立記念日に行う創立記念集会（今年はコロナ禍のため放送で実施）に加えて、毎月26日前後に愛校日を設定している。愛校日に行う様々な活動を通して、愛校心を高め、より良い学校をつくろうとする気持ちを育てている。各専門委員会や各縦割団による企画運営で、「学級旗&学級目標発表」、「クイズ坂中王」など様々なテーマを設定し愛校日活動を行った。

3 成果と課題（○成果，●課題）

○ 縦割団活動を継続することによって、縦のつながりを深まった。各学年だけでは活動が難しい体育祭や文化祭の合唱コンクールなどの行事も、学年を越えて団結し、盛り上がる事ができた。また、先輩と関わる機会が増えたことにより、学校の伝統を担う意識やこれまで培われてきた技術を伝達しやすくなったように感じる。

● 生徒数の減少により、いよいよ生徒一人一人の負担が大きくなる。体育祭では種目数を減らしたり、係の仕事を教師で分担したり、一部なくしたりして対応したが、来年度以降はさらに柔軟な対応を考える必要がある。